

農業者を守る施策せむ

党県議団が県農林水産部長と懇談

日本共産党県議団（尾根1区予定候補は1月25日、県庁を訪ね、党の経済再生プランなどについて懇談しました。



尾根1区予定候補は1月25日、県庁を訪ね、党の経済再生プランなどについて懇談しました。尾根1区予定候補は1月25日、県庁を訪ね、党の経済再生プランなどについて懇談しました。

党大会決定を力に党躍進へ

「この党の一員でよかった」「130%の党づくりと世代継承はできると思えた」――前進への道すがら見え、元氣



元衆議院議員 大平よしのぶ

アツク やさしく

若者たち、女性の皆さんがいきいきと輝き、自分たちと同じように苦勞している組織が学びを重ね方針通りにとりくんでいく中で着実に、時にはダイナミックに前進する経験がいくつも示されました。徹底した党内民主主義――反対意見も含めて一人ひとりの自由な討論が活発に行われ、全党の英知と実践で練り上げた大会決議に象徴される民主集中制のすばらしさをあらためて目の当たりにしました。

大会最終日の朝、議事が始まる前に中国地方の代議員・評議員みんなが集まり、「中国プロジェクト決起集会」を行いました。「島根1区から自民党を打倒する！」「宝の散りばめられた大会決

定を力に、広島から『比例は共産党』を大きく！など、総選挙での中国プロジェクトの議席奪還と党躍進への決意にあふれる場となりました。鳥取の杉本民青県委員長と宿泊部屋が同じで話を聞きました。鳥取の民青は昨年の年間拡大目標25人をやりきり、さらに今年はずでに1カ月半でその約半分まで増やしているとのことでした。中国地方でもすでに飛躍が起こり始めています。

「中国地方は一つ」。連帯と団結が大会でいっそう深まったのは、最も嬉しいことでした。この団結と大会決定を力に、議席奪還・党躍進へ先頭にたってがんばります。（1月26日記）

沖縄と連帯する島根の会・設立7周年記念講演会

「食料自給率向上は東アジアの平和の道」

講師：長谷川敏郎氏（農民運動全国連合会 会長）

2月12日（月・祝） 13:30～15:20

会場：島根県民会館・大会議室 資料代300円

※講演会終了後、2024年度の定期総会を行います。

主催：沖縄と連帯する島根の会

憲法審査会の大平質問

事態が変わった

大平 新年明けましておめでとうございます。めでたうございます。

赤嶺 明けましておめでとうございませう。私、大平さんと会うと、2015年6月4日の憲法審査会を思いだすんです。当時、憲法審査会は日本共産党から大平さんと私の2人。あの時、国会に「戦争法」（安保法制）案が提出され、それが憲法に違反するかどうかで大きく世論が盛り上がっていました。その時、憲法審査会に憲法学者3名が参考人として出席され、大平さんが彼らに「安保法制は憲法違反ではないか」と質問したら3人が揃って「憲法違反だ」と答えたもんですから、もうメディアが大騒ぎで、大平 議場もどよめきが起こりましたね。

赤嶺 あれから安保法制は憲法違反ということ、国民的なたたかひになっていきました。そのたたかひの火をつけたのが大平さんです。今、憲法9条の値打ちが光ってますから、私も頑張りますが、大平さんとまた一緒に憲法審査会であたかいたいというのが率直な気持ちです。

大平 ありがとうございます。憲法審査会は議員間での真剣勝負の討論の場です。時には日本共産党の綱領や歴史についても、自

民党や維新の会の議員

市民と共にとたかひ、希望広げる年に

沖縄と中国地方から大軍拡・強権政治に抗して

大平よしのぶ（元衆議院議員）

赤嶺 政賢（衆議院議員）

～新春対談①～

時、自民党は「これ以上憲法審査会を開いたら大変だ」と結局1年半の間、開催は止まりましたね。

大平 そうでした。改めて振り返ると、大きなターニングポイントでしたね。沖縄への強権と

「オール沖縄」の結成

大平 岸田政権が昨年ふ

建設の問題でした。

普天間基地の危険性の除去のために必要だと政府は言うわけですね。しかし、辺野古の新基地は四半世紀たっても実現せず、あと12年もかかる計画。1日も早い危険性の除去というのであれば、そもそも辺野古はその役割、目的を果たしません。1995年に米兵3人による少女暴行事件がありました。当時12歳の小学生が被害にあつた。「復帰しても何も変わらないじゃないか」と8万5千人の怒りの県民総決起大会が開かれました。すると日米両政府は大慌てして県民のたたか

いを抑えるために持ち出してきたのが普天間基地返還だった。それで辺野古の新基地建設を受け入れろって言っても沖縄の人は許せるはずじゃないですよ。だから、保守の翁長知事が「絶対に認められない」と「オール沖縄」を提唱した。翁長知事は「みなさん、共産党が基地撤去で一生懸命頑張ってきたから、私たちが安保条約には賛成だけれども、辺野古の基地は許さない」というところからようやく来れた。赤嶺さんたちは安保反対の党、私たちは安保賛成だけれど、一致点は「辺野古に基地はつくらせない」ということ。色々あっても県民は絶対負けない。「オール沖縄」の議員はこうした県民としっかり結びついて

（続く）